

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 6月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	3871000372		
法人名	有限会社 あいらんど		
事業所名	グループホーム あいらんど		
所在地	伊予市下三谷2278-1 (電話) 089-983-3445		
管理者	濱田 好人		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	5月16日	評価確定日	7月11日

【情報提供票より】(19年4月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年 2月10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(3) 利用者の概要(4月22日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	9 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 82.7 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護
届出 あり・(なし)	短期利用型共同生活介護
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、運営者の居住する地区に建てられた鉄骨平家造りの建物で、静かな自然環境の中にある。広い敷地内には、家庭菜園、ゲートボール場、遊歩道、両ユニットの間に中庭を設置している。玄関は開放されており、家族や近所の人達が訪問しやすい。ホーム内は季節の物がさりげなく飾られ、家庭的な雰囲気づくりがされている。運営者の思いは管理者及び全職員に共有されており、具体化された理念は利用者の日々の暮らしに活かされ、自分のペースでその人らしく過ごされていることからもうかがえる。畑で採れた野菜を使った食事は、利用者の楽しみとなっている。また自治会にも加入し、地域の行事にも参加している。運営推進会議を開くことにより、地域との交流が深まってきており、地域に密着したサービスがさらに期待できるホームである。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
個別の栄養摂取状況を定期的に専門的な観点からチェックすることが必要という課題に対して、評価後に2週間分の献立をチェックしてもらい、その後は協力医療機関でいつでも専門的なチェックが受けられる体制を確保した。金銭の支援においては、家族の協力や理解を得て、本人がお金を持ち、自分で支払う場面や機会を積極的につくり、支援している。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
今回は書類の記録方法が変わったので、自分たちの理解のための方法を取り、運営者、管理者、計画担当者、各ユニットの主任で自己評価を行った。自己評価の内容については全職員に周知し、自己評価の結果をさらにサービスの質の向上に活かすようにしている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
議題として、ホームの利用者、運営状況、サービス提供の状況、評価結果の報告と意見交換を行っている。まだ2回の開催だが、地域の人達の理解も得られるようになっており、市との連携も取れている。また、今後の方向性も明確にしている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重要事項説明書に、苦情申立先についてホーム及び公的窓口を記載し、説明も行っている。また家族会や家族の来訪時には声かけを行い、気軽に相談や意見を出してもらえるように心がけている。
▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
自治会に加入し、地域の行事に参加している。運営推進会議により地域の人達との交流が深まってきている。地域や近所の人々が介護について相談に来たり、見学者の受け入れも行っている。また、運営者が地区の住民としての役割も担っており、地区の用紙をよくわかっており、地域との連携は取れている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取り組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム あいらんど

(ユニット名)

A ユニット

記入者(管理者)
氏 名

濱田 好人

評価完了日

平成19年 6月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 自分らしさを保つ為に住み慣れた地域で生活し続けられるよう、事業所独自の理念をつくりあげている。 (外部評価) 地域密着型サービスの意義を理解し、住み慣れた地域での利用者の安心した暮らしを支えるために、運営方針・基本方針をさらに具体化し、利用者本位の独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ミーティング等で理念の実践に向けて話し合いを持ち取り組んでいる。 (外部評価) 管理者と職員は共に理念をさらに具体化するために、ユニット毎に意見を出し合い、介護目標を決め、理念と共に居間に掲示し、利用者の日々の暮らしの中で実践している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営理念は玄関、リビングに提示しており、ホーム便り、ホームページ、冊子を作成し、家族や地域の人々に認知症を理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 敷地内にベンチを配し、散歩途中の方が休んでいられる。近所の畑で農作業をされている方や散歩をされている方など挨拶をすることにより日常的な付き合いが出来るよう努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに取り組んでいる	(自己評価) 自治会に加入し川や道路の掃除に参加している。又、秋祭りの行事ではお御輿や獅子舞がきており子供神輿も入り子供たちとの交流も楽しみにしている (外部評価) 自治会に加入し、地域の行事に参加している。散歩中や畑にいる近所の人達には挨拶や話をしたりしている。また地域の人が介護について相談に来たり、見学者の受け入れも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 近所の方地域の方から家族の介護について相談を事業所として受けている。又実習生の受け入れも積極的に行っている。	※	ゲートボール場を無料開放しているがあまり使用されていない為、地域交流の場としてもっと活用されるよう積極的に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価外部評価の意義を理解し評価結果はミーティングで報告し、ケアサービスに活かしている。 (外部評価) 評価の意義を理解しており、外部評価結果はミーティングで報告し、改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用状況、サービスの実際、外部評価等の報告をし意見内容をサービス向上に活かしている。 (外部評価) 会議には利用者の家族、地域住民、市職員の参加があり、意見を出し合っている。会議を開くことにより地域との関わりも深くなり、ホームへの理解も得られてきている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村との連絡を密にとりグループホーム連絡会への参加を積極的に受託している。又、事故報告や情報提供を行っている。 (外部評価) 市が開催するグループホーム連絡会には積極的に参加し、また連絡を密にとり、情報提供を行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の勉強会を行い職員が理解している。また、マニュアルを作成しており利用者や家族等に説明できる体制を整えている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行わないことをすべての職員が認識し虐待のないケアを行っている。	※	職員用のマニュアルを作成したい

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際には説明を行い家族の不安疑問点等を尋ね理解、納得を頂いて入居している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月一回の介護相談員の訪問時に利用者が自由に発言する場を設けている。又不満や苦情のある際には外や居室で職員と二人になり個別に話せる機会を設けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 家族に利用者の近況を定期的に伝えている。 (ホーム便り、ホームページの作成、遠い家族に写真の送付。ホーム内にはアルバム、ビデオの掲 (外部評価) 毎月領収書と共に現在の状況を郵送にて報告している。また全職員が把握できるように、本人の思いや家族に話したいことなどをノートに記録し、家族の来訪時に伝えている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が意見、不満、苦情を第三者（県、市町村、国保連合会）に発言出来ることの説明をしている。管理者や職員に対しては家族会及びケアプラン説明時に発言の場を設けている。 (外部評価) 重要事項説明書に苦情申立先をホーム及び公的窓口を記載し、説明も行っている。また家族会や家族に来訪時には声かけを行い気軽に相談や意見を出してもらえるように心がけている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の会話の中やミーティング、又定期的な面接を行うことにより意見や提案を反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務の変更をする場合は話し合いをもつ。又、緊急の場合は連絡網で連絡をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の移動は最小限に抑え平屋の特性を活かして両ユニットの交流の場を持ち、その際利用者にも職員の顔を覚えてもらうようにしている。 (外部評価) 退職した職員については、利用者、家族にきちんと報告している。異動は最小限に抑え、利用者や職員の馴染みの関係を重視した配置となっている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人外の研修を受ける機会を確保し、法人内では、助言、指導、資料、文献の提供等、管理者・計画作成担当者がその都度行っている。 (外部評価) 法人外及び法人内において研修を受ける機会を確保している。研修内容は報告書を作成して、スタッフ会で全員に周知している。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 伊予市グループホーム連絡会の研修等、同業者と交流する機会を活かし、ネットワークづくりをし、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。 (外部評価) 市が開催しているグループホーム連絡会に参加し、勉強会や同業者との交流を図ることにより、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 月一回のスタッフ会や職員相互の親睦会をおこなっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、一人ひとりのモチベーションを上げるような対策をしている。又職員が向上心を持ち続けられるよう半年に一度の面接と職能評価を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談を受けてからの事前調査では、本人が一番困っている事、不安な事、求めている事を本人自身から聴くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査では、家族が一番困っている事、不安な事、求めている事を本人自身から聴くようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、本人・家族が求めている支援を見極めて、個々にあったサービス事業所の紹介や助言をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用開始前に職員が会いに行ったり、事業所に来てもらい短時間でも過ごしてもらっている。利用開始時には本人と家族への十分な話し合いを行っている。 (外部評価) サービスを利用する前に、職員が訪問したり、ホームに来て過ごす時間を設けたりしている。利用開始時には本人や家族と十分に話し合っている。	※	認知症対応型通所介護を申請していて、デイサービスも考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごす事で、利用者が生き生きとした言動や笑顔を引き出せる様雰囲気作りを行い、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 (外部評価) 職員と一緒に過ごしていく中で、話を聞いてもらったり、調理の仕方を教わったりしている。また一人ひとりをよく把握していて、声かけなどを工夫して教えてもらう場面づくりをしている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一方的な支援でなく、家族と一緒に本人を支えていく関係を築くために、場合によっては、通院介助や外出を定期的に行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族が気軽に訪問できるような雰囲気作りに努め、年2回家族会を開催し、ホームでの活動に参加してもらっている。(もちつき・夕涼み会)又、家族との外出や外泊も支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。(ふるさと訪問・墓参り・友人の面会・冠婚葬祭等)		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 仲のよいもの同士が過ごせる配慮、孤立しないようさりげなく交われる配慮、利用者同士の支えあいを支援している。職員は全員がそのときの利用者同士の関係を情報で共有、理解している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居してもその後の利用者や家族には利用者の状況を訊くようにしている。他施設へ移った場合は面会に行っており、退居した方も訪ねてもらえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で要望を聞き、出来るだけ希望に添うように努めている。又要望の把握が困難な場合は個別カンファレンスをもっている。 (外部評価) 職員は日々の暮らしの中で要望を聞いたり、表情や言動等からも把握に努めている。白髪が気になる利用者には、職員が染める等支援している。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントシートにより利用者一人ひとりの生活歴を情報収集しこれまでの暮らしの把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量、心身状態を観察し職員全員が情報を共有し把握している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や関係者の意見を取り入れ月1回のケアカンファレンスでそれぞれの意見やアイデアを出して作成している。		
			(外部評価) 一人ひとりその時点での状態、本人や家族の要望、スタッフ会で意見やアイデアを出して、その人らしく暮らしていくための、本人本位の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 実施期間を明示しており、その期間が終了する際に見直しを行うとともに、毎月一回、状態の変化や介護計画の評価をしている。		
			(外部評価) 介護計画に実施期間を明示して見直しを行っている。月1回個別に介護計画の評価を行い、状態の変化に応じてカンファレンスを行い、見直しを行っている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのケアプランに添った介護を行い、その内容を介護記録に詳細に記録している。月一回のカンファレンスにて情報の共有をし、介護計画のの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) よりの確な専門医への移送サービス体制がとれている。(糖尿外来等) その人によりの確な福祉用具の助言や負担を軽減した提供ができる。		
			(外部評価) 急変時に24時間対応できる医療機関との連携体制が取れている。看取りに関する指針がある。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 周辺施設(商店、警察、消防等)の理解 協力への働きかけを行っている。18年度の市の介護相談員さんはホーム地域の民生委員さんであった。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 砥部病院の通所リハに週1回通っておられる利用者がいる。又定期的に理美容サービスを受けられるよう支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 伊予市は平成19年4月からの開設のため実施していない。	※	今後は利用者個々の状況等に尾応じて連携をはかりながら個別支援をしていきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者及び家族が希望する医療機関を受診している。又事業所の協力医療機関(しのぎき医院、砥部病院)の医師をかかりつけ医とする場合は本人と家族の同意を得ている。		
			(外部評価) 本人・家族の希望する医療機関を受診してもらっている。ホームの協力医療機関をかかりつけ医とする場合は同意を得ている。受診日も記録されており、一人ひとりの状態把握もできている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) しのぎき医院篠崎先生に相談している。砥部病院院長、認知症専門医、とも相談し助言を得ている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員には看護師もおおり日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院する際に本人のストレスや負担を軽減する為に本人に対する情報の提供を行い早期退院に向け医療機関との連携を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 出来るだけ早期から本人家族等と話し合いを繰り返し本人、家族の意向を確認しながら対応 方針の共有を図っている。看取りについての同意書の準備がある。		
			(外部評価) 「重度化した場合における対応に係わる指針」及び「看取りに関する指針」を定め、ホームで看取りを希望する場合の受け入れ体制ができており、説明も行っている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 急変時の主治医や家族と連携をはかる体制を整えている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分な話し合い情報交換を行い住み替えによる本人のダメージを最小限に防ぐことに努めている。又、退居時には情報提供書を作成している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の取り扱いの重要性を職員全員がかりかいしており誇りやプライバシー、プライドを損ねるような言葉掛けや対応がないよう配慮している。、又スタッフ会などで個人情報保護について話し合いをもっている。		
			(外部評価) 職員の言葉かけや対応から、利用者一人ひとりを尊重していることがうかがえる。個人情報の取り扱いについても職員は理解しており、誓約書も書いている。	※	来客チェック表に住所まで書くようになっているが、訪問者は誰でも見るようになっていたため、訪問者の個人情報保護について再検討を望みたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりが自己決定できるよう選んでもらう場面づくりや日常的に声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員が出来るだけ業務におわれることのないよう話し合いを持っている。利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう個別性のある支援している。 (外部評価) 職員は一人ひとりに声をかけをし、その日の体調にも配慮が見られる。食事をするペースも本人に合わせ見守っている。食後の歯磨きも自然にさりげなく誘導している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの希望に合わせて理美容院の利用を支援している。希望があれば家族さんと相談し理美容院の利用を支援している。定期的に訪問理美容院が来設している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを把握し準備、片付けは出来るだけ一緒にいき、食事は楽しむこと出来るよう支援している。職員も一緒に食事を楽しんでいる。 (外部評価) 職員も会話を楽しみながら同じものを一緒に食べている。介助が必要な人にはさりげなくサポートしながら支援している。後片付けはそれぞれ役割分担して行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は本人が望む嗜好を理解しており家族からの差し入れや本人のお小遣いでの買い物により好みの物を楽しめるよう支援している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) (排泄チェック表を使用) 排泄パターンを把握し状況により時間での誘導等を行い気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 事前に本人と相談し希望に沿うよう入浴を楽しめるよう支援している。 (外部評価) 本人の希望時間に合わせて入浴できるように支援している。また、拒否のある人には言葉かけや対応の工夫をして、本人が納得して入浴をしてもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し日中なるべく活気のある生活リズムを作り安眠できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの力量に合わせた役割を持ってもらい（食器拭き、洗濯、ゴミ捨て、掃除機がけ等）カラオケや読書の楽しみごとにも時間を費やすことが出来るよう支援している。 (外部評価) 職員は一人ひとりの生活歴から得意な事や好きな事の把握ができており、その人にとってどうすれば楽しみ事や役割が見い出せるか、声かけ等を工夫している。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人がお金を持つこと、の大切さを職員が理解しており希望や力量に応じて本人が支払う場面を作るようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 出来るだけ希望にそうようにスーパーへの食材の買い物に行くときは戸外へ出かけられるよう支援している。 (外部評価) その日の希望に応じて買い物や散歩に出かけている。玄関は開放されていて、家庭菜園も広く、収穫のために外に出たり、敷地内の遊歩道を散歩するなど外の空気に触れる機会をつくっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 日々の会話の中で利用者の行きたい所を把握しており家族とも連携をはかり実現できるよう支援している。（花見、外食、墓参り、里帰り）		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じ自由に電話を利用することが出来る。また、年賀状や暑中見舞いの送付も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも気軽に訪問できる雰囲気作りをしている。来設時には本人や家族の希望を取り入れ居室を中心にプライバシーを保てる場所でゆっくり過ごせるよう支援している。(ゲストルームなど)		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行わないことを勉強会等を通じてすべての職員が認識し身体拘束のないケアをおこなっている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵を掛けておらず外出の察知、外出傾向の把握など職員間で認識しており工夫している。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの外出の癖や傾向を把握しており、その日の状態を見守りながら、玄関には鍵をかけず、自由な暮らしを支えている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは常に利用者を見守りやすい場所にいる。又、利用者一人ひとりの行動を把握している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じて薬や洗剤、刃物等の保管場所や管理方法を取り決め実行している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒、窒息、誤薬、火災等の対応マニュアルを各ユニットに置いており一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。インシデント用紙の記録、ユニットごとにケアカンファレンスの際ケアの見直し等の検討をしている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成し定期的に勉強会を行っている。救命士による救急救命講習をおおむね年一回受けている		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) おおむね年一回消防訓練、避難訓練を利用者とともに受けている。又、地元の消防団の方々は毎年秋祭りには来設されホームのことをよく知ってくださっている		
			(外部評価) 年1回消防訓練・避難訓練を実施している。また地元の消防団との協力体制もある。災害対応マニュアルは作成していない。	※	地域住民の参加や協力を得ながら、年間を通じて昼・夜想定訓練や、災害対応マニュアルの作成が望まれる。また他の事業者との協力体制や災害に備えた備品などの準備も望みたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こり得るリスクについて一人ひとりに説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を家族とともに話し合っている。(拘束等)		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 一人ひとりの体調の変化を健康管理表や介護記録に記載しスタッフ間でも情報の共有をはかっている。又、利用者の異変には早期発見に努め適切な対応をしている。又、家族にはその都度連絡している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は利用者の薬の目的、副作用、用法、用量を承知しており服薬の支援、症状の変化を確認している。(薬暦表有り)		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックを行っている。体操や散歩乳製品などを使用し自然排便を促すよう取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の力を引き出しながら一人ひとりに応じた口腔内の清潔を保てるよう支援している。義歯の管理も清潔に留意し行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 糖尿病の方がいるため水分、栄養バランス、一日のおおまかなカロリー摂取量を把握している。必要な人には水分チェック表も作成している。食事量も健康管理表で把握している。		
			(外部評価) 食事の摂取量、水分量の把握は出来ている。栄養バランスにも配慮がみられ、献立や調理方法にも工夫がある。病気の人は医師の指導もあり、協力医療機関でいつでも専門的なチェックが受けられる体制を確保している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 毎朝、次亜塩素系の液で手すり、車椅子、ドアノブ等消毒している。便座のエタノール消毒も毎回行っており感染症のマニュアルも作っている。利用者、職員全員は年1回インフルエンザの予防接種をしている		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮で安全な食材を使用しておりまな板ふきんを毎日消毒している。毎食前に30分次亜塩素酸につけた台ふきんでテーブルを拭いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周り、遊歩道にプランターや鉢を置き気軽に訪ねやすい雰囲気づくりを配慮している。周囲には桜を植えている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂のテーブルは家庭用家具（施設用ではない）を使用しており居間の掘りごたつ、リビングのソファ等家庭的な共同空間作りに努めている。 (手作りののれん)トイレは気持ちよく使用できるように配慮している。		
			(外部評価) 玄関や居間には季節を感じさせるものが違和感なく飾られている。両ユニットの間に中庭があり、ホーム全体を明るく包んでいる。共用のスペースには畳もありこたつも置かれている。日射しはカーテンで調節している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関ホール、リビング、居間の掘りごたつ、中庭等、共同空間の中に自由に過ごせる居場所を確保している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具や仏壇、生活用品等を持ち込まれ安心して過ごせる居室となっている。		
			(外部評価) 居室の表札やドアの暖簾は本人に合わせて手作りされたものが掛けられている。居室には使い慣れた物が持ち込まれていて、家庭で過ごされていた雰囲気が見られ、その人らしい居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝掃除時にはすべての部屋の窓を開け暖かい季節には中庭や玄関を常時開けて喚起に努めている。冷暖房の温度調節は利用者の体調に合わせて随時行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 浴室の滑り止め、要所の手すり、ベッド柵の設置等ADLの低下を補うよう配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室、トイレ、浴室に手作りの表札やのれんをつけている。自分の居室がわからない人には造花等の目印をつけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭や外ベンチでの日向ぼっこを楽しんでいる。又建物の外回りに遊歩道、畑を有し自由に散歩や収穫をしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない

職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向をコミュニケーションの中で情報収集をしチームで共有してその人を支援していく方向性を決め実施している。

朝10時のコーヒー、3時のおやつ、食後の団欒、天気のよい日の日向ぼっこをする場面がある。

利用者全員がホームでの生活を一年以上続けておられる。それぞれに自分の生活リズムを確立され、居室で過ごしたり、DVDカラオケ鑑賞、外散歩、畑や草むしりなど自分のペースで暮らしている。

畑が好きな方、料理が好きな方、カラオケが好きな方、読書が好きな方、それぞれの個性を職員が理解しており生き生きとした表情を引き出すことが出来ている。

ホームの食材の買出しへの付き添い、戸外への散歩、家族との通院を通じての外出など行えている。意思表示が困難な方の希望に添えていないかもしれないことは課題。

医療機関への連携を確保している。月2回も往診に加え、入居時には脳外科にて頭部CTをとっており年に一回健康診断を行っている。（篠崎医院、砥部病院、佐々木歯科、まえおか眼科）

その時々状況や要望に応じて柔軟な支援が出来ている。帰宅願望時の散歩、買い物、通院、家族との連絡など。

家族面会時などを通じて密に連絡をとりよく話を聴き信頼関係ができている。

昔のご住所の友人が遠方から来られたりしている。祭りには地域の方々が来設される。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を二ヶ月に1回行うことにより、地域住民の方、地元の関係者の方などと意見交換ができており少しずつ理解者や応援者が増えている。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々の業務を重ねるごとに職員相互の信頼関係を深め個人を尊重し、笑顔を大切に生きて生きと働けている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者からは「ありがとう」の言葉をいただき日々の生活を重ねるごとにこの場所が居場所だと認識出来ている。。職員ともなじみの関係ができており安心して生活されている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	年2回の家族会の参加人数も多く（夕涼み会、もちつき）普段の面会者数も多い。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・利用者が自分の居場所を確保し、ゆったりと安心して生活できるよう心がけている。又医療機関との連携が密にとれている。
- ・利用者一人ひとりの個性を尊重し、自分らしく生き生きと暮らせるよう支援している。
- ・職員同士の連携がとれており信頼関係ができチームケアに活かしている。スタッフ会では活発な意見がでてよい方向に向かっている。
- ・敷地を活かした畑での収穫を行い新鮮な食材を工夫して調理している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取り組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム あいらんど
(ユニット名)	B ユニット
記入者(管理者) 氏 名	計画作成担当者 亀岡 美由紀
評価完了日	平成19年 6月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 自分らしさを保つ為に住み慣れた地域で生活し続けられるよう、事業所独自の理念をつくりあげている。 (外部評価) 地域密着型サービスの意義を理解し、住み慣れた地域での利用者の安心した暮らしを支えるために、運営方針・基本方針をさらに具体化し、利用者本位の独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ミーティング等で理念の実践に向けて話し合いを持ち取り組んでいる。 (外部評価) 管理者と職員は共に理念をさらに具体化するために、ユニット毎に意見を出し合い、介護目標を決め、理念と共に居間に掲示し、利用者の日々の暮らしの中で実践している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営理念は玄関、リビングに提示しており、ホームページ、ホームページ、冊子を作成し、家族や地域の人々に認知症を理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 敷地内にベンチを配し、散歩途中の方が休んでいられる。近所の畑で農作業をされている方や散歩をされている方など挨拶をすることにより日常的な付き合いが出来るよう努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会に加入し川や道路の掃除に参加している。又、秋祭りの行事ではお御輿や獅子舞がきており子供神輿も入り子供たちとの交流も楽しみにしている (外部評価) 自治会に加入し、地域の行事に参加している。散歩中や畑にいる近所の人達には挨拶や話をしたりしている。また地域の人が介護について相談に来たり、見学者の受け入れも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 近所の方地域の方から家族の介護について相談を事業所として受けている。	※	ゲートボール場を無料開放しているがあまり使用されていない為、地域交流の場としてもっと活用されるよう積極的に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価外部評価の意義を理解し評価結果をケアサービスに活かしている。 (外部評価) 評価の意義を理解しており、外部評価結果はミーティングで報告し、改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用状況、サービスの実際、外部評価等の報告をし意見内容をサービス向上に活かしている。 (外部評価) 会議には利用者の家族、地域住民、市職員の参加があり、意見を出し合っている。会議を開くことにより地域との関わりも深くなり、ホームへの理解も得られてきている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村との連絡を密にとりグループホーム連絡会への参加を積極的に行っている。又、事故報告や情報提供を行っている。 (外部評価) 市が開催するグループホーム連絡会には積極的に参加し、また連絡を密にとり、情報提供を行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の勉強会を行い職員が理解している。また、マニュアルを作成しており利用者や家族等に説明できる体制を整えている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行わないことをすべての職員が認識し虐待のないケアを行っている。	※	職員用のマニュアルを作成したい

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際には説明を行い家族の不安疑問点等を尋ね理解、納得を頂いて入居している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月一回の介護相談員の訪問時に利用者が自由に発言する場を設けている。又不満や苦情のある際には外や居室で職員と二人になり個別に話せる機会を設けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 家族に利用者の近況を定期的に伝えている。 (ホームページの作成、遠い家族に写真の送付。ホーム内にはアルバム、ビデオの掲 (外部評価) 毎月領収書と共に現在の状況を郵送にて報告している。また全職員が把握できるように、本人の思いや家族に話したいことなどをノートに記録し、家族の来訪時に伝えている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が意見、不満、苦情を第三者（県、市町村、国保連合会）に発言出来ることの説明をしている。管理者や職員に対しては家族会及びケアプラン説明時に発言の場を設けている。 (外部評価) 重要事項説明書に苦情申立先をホーム及び公的窓口を記載し、説明も行っている。また家族会や家族に来訪時には声かけを行い気軽に相談や意見を出してもらえるように心がけている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の会話の中やミーティング、又定期的な面接を行うことにより意見や提案を反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務の変更をする場合は話し合いをもつ。又、緊急の場合は連絡網で連絡をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の移動は最小限に抑え平屋の特性を活かして両ユニットの交流の場を持ち、その際利用者にも職員の顔を覚えてもらうようにしている。 (外部評価) 退職した職員については、利用者、家族にきちんと報告している。異動は最小限に抑え、利用者と職員の馴染みの関係を重視した配置となっている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人外の研修を受ける機会を確保し、法人内では、助言、指導、資料、文献の提供等、管理者・計画作成担当者がその都度行っている。又、研修受講者は都度スタッフ会で研修報告をしている。 (外部評価) 法人外及び法人内において研修を受ける機会を確保している。研修内容は報告書を作成して、スタッフ会で全員に周知している。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 伊予市グループホーム連絡会の研修等、同業者と交流する機会を活かし、ネットワークづくりをし、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。 (外部評価) 市が開催しているグループホーム連絡会に参加し、勉強会や同業者との交流を図ることにより、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 月一回のスタッフ会や職員相互の親睦会をおこなっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、一人々のモチベーションを上げるような対策をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査では、本人が一番困っている事、不安な事、求めている事を本人自身から聴くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査では、家族が一番困っている事、不安な事、求めている事を本人自身から聴くようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、本人・家族が求めている支援を見極めて、個々にあったサービス事業所の紹介や助言をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用開始前に職員が会いに行ったり、事業所に来てもらい短時間でも過ごしてもらっている。利用開始時には本人と家族への十分な話し合いを行っている。 (外部評価) サービスを利用する前に、職員が訪問したり、ホームに来て過ごす時間を設けたりしている。利用開始時には本人や家族と十分に話し合っている。	※	認知症対応型通所介護を申請していて、デイサービスも考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごす事で、利用者が生き生きした言動や笑顔を引き出せる様雰囲気作りを行い、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 (外部評価) 職員と一緒に過ごしていく中で、話を聞いてもらったり、調理の仕方を教わったりしている。また一人ひとりをよく把握していて、声かけなどを工夫して教えてもらう場面づくりをしている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一方的な支援でなく、家族と一緒に本人を支えていく関係を築くために、場合によっては、通院介助や外出を定期的に行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族が気軽に訪問できるような雰囲気作りに努め、年2回家族会を開催し、ホームでの活動に参加してもらっている。(もちつき・夕涼み会)		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。(ふるさと訪問・墓参り・友人の面会・冠婚葬祭等)		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 孤立しないようさりげなく交われる配慮、利用者同士の支えあいを支援している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居してもその後の利用者や家族には利用者の状況を訊くようにしている。他施設へ移った場合は面会に行っており、退居した方も訪ねてこられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で要望を聞き、出来るだけ希望に添うように努めている。又要望の把握が困難な場合は個別カンファレンスをもっている。 (外部評価) 職員は日々の暮らしの中で要望を聞いたり、表情や言動等からも把握に努めている。白髪が気になる利用者には、職員が染める等支援している。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントシートにより利用者一人ひとりの生活歴を把握しており一人ひとりにあった話題作り等をしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) スタッフは常に利用者を見守りやすい場所にいる。又、利用者一人ひとりの行動を把握している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) アセスメントに基づき利用者主体の目標を経て個別・具体的な介護計画を作成している。その場合個々がチームケアの大切さを理解しており、スタッフ会でそれぞれの意見やアイデアを出して作成している。		
			(外部評価) 一人ひとりその時点での状態、本人や家族の要望、スタッフ会で意見やアイデアを出して、その人らしく暮らしていくための、本人本位の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 実施期間を明示しており、その期間が終了する際に見直しを行うとともに、毎月一回、状態の変化や介護計画の評価をしている。		
			(外部評価) 介護計画に実施期間を明示して見直しを行っている。月1回個別に介護計画の評価を行い、状態の変化に応じてカンファレンスを行い、見直しを行っている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランに添った介護を行い、その内容を介護記録に詳細に記録している。月一回のカンファレンスにて情報の共有をし、介護計画のの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) よりの確な専門医への移送サービス体制がとれている。(透析・糖尿外来等) その人によりの確な福祉用具の助言や負担を軽減した提供ができる。		
			(外部評価) 急変時に24時間対応できる医療機関との連携体制が取れている。見取りに関する指針がある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 周辺施設(商店、警察、消防等)の理解 協力への働きかけを行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問マッサージを週2～3回受けておられる利用者がいる。又定期的に理美容サービスを受けられるよう支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 伊予市は平成19年4月からの開設のため実施していない。	※	今後は利用者個々の状況等に尾応じて連携をはかりながら個別支援をしていきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者及び家族が希望する医療機関を受診している。又事業所の協力医療機関(しのぎき医院、砥部病院)の医師をかかりつけ医とする場合は本人と家族の同意を得て (外部評価) 本人・家族の希望する医療機関を受診してもらっている。ホームの協力医療機関をかかりつけ医とする場合は同意を得ている。受診日も記録されており、一人ひとりの状態把握もできている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) しのぎき医院篠崎先生に相談している。砥部病院院長、認知症専門医、とも相談し助言を得ている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 利用者をよく知る看護職員が日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院する際に本人のストレスや負担を軽減する為に本人に対する情報の提供を行い早期退院に向け医療機関との連携を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 出来るだけ早期から本人家族等と話し合いを繰り返し本人、家族の意向を確認しながら対応 方針の共有を図っている。看取りについての同意書をとっている。 (外部評価) 「重度化した場合における対応に係わる指針」及び「看取りに関する指針」を定め、ホームで看取りを希望する場合の受け入れ体制ができており、説明も行っている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 急変時の主治医や家族と連携をはかる体制を整えている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 利用者のプライバシーを配慮し家族や保健医療福祉の関係者と十分に情報交換した上で入退居を行っている。又、退居時には情報提供書を作成し移り住むことのダメージを最小限におさめている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシー、プライドを損ねるような言葉掛けや対応を行わないようにしており、又理解している。スタッフ会などで個人情報保護について話し合いをもっている。 (外部評価) 職員の言葉かけや対応から、利用者一人ひとりを尊重していることがうかがえる。個人情報の取り扱いについても職員は理解しており、誓約書も書いている。	※	来客チェック表に住所まで書くようになっているが、訪問者は誰でも見ることが出来るようになっているため、訪問者の個人情報保護について再検討を望みたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりが自己決定できるよう選んでもらう場面づくりや日常的に声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員が出来るだけ業務におわれることのないよう話し合いを持っている。利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。 (外部評価) 職員は一人ひとりに声をかけをし、その日の体調にも配慮が見られる。食事をするペースも本人に合わせ見守っている。食後の歯磨きも自然にさりげなく誘導している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの個性を大切に髪型や服装、おしゃれを支援している。2ヶ月に一回訪問理美容院が来設しているが本人が望む店には家族と一緒に出かけている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は利用者と一緒に準備や後片付けをしている。又、食事を一緒に楽しんで食べている。 (外部評価) 職員も会話を楽しみながら同じものを一緒に食べている。介助が必要な人にはさりげなくサポートしながら支援している。後片付けはそれぞれ役割分担して行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む嗜好に合わせた支援ができている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い出来る限りオムツを使用しないようにしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 曜日はおおむね決まっているが利用者一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。 (外部評価) 本人の希望時間に合わせて入浴できるように支援している。また、拒否のある人には言葉かけや対応の工夫をして、本人が納得して入浴をしてもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し生活リズムを整え安眠できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活歴や趣味を把握しスタッフの支援の中で生きがいと役割を持って生活している。(洗濯たたみ、洗濯干し、炊事、ミシン、楽しみにしているテレビ番組) (外部評価) 職員は一人ひとりの生活歴から得意な事や好きな事の把握ができており、その人にとってどうすれば楽しみ事や役割が見い出せるか、声かけ等を工夫している。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量に応じて金銭管理を援助している。買い物の際は本人が支払う機会を持っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の希望によって買い物、散歩等随時行っており近隣へも利用者と一緒に出かけている。(スーパー、100円ショップ) (外部評価) その日の希望に応じて買い物や散歩に出かけている。玄関は開放されていて、家庭菜園も広く、収穫のために外に出たり、敷地内の遊歩道を散歩するなど外の空気に触れる機会をつくっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 利用者の行きたい所を把握しており家族とも連携をはかり実現できるよう支援している。(花見、外食、ピクニック、親類宅訪問)		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じ自由に電話を利用することが出来る。また、年賀状や暑中見舞いの送付も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 来設時には本人や家族の希望を取り入れ居室を中心にプライバシーを保てる場所でゆっくり過ごせるよう支援している。(ゲストルームなど)		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行わないことを勉強会等を通じてすべての職員が認識し身体拘束のないケアをおこなっている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はかぎを掛けておらず外出の察知、外出傾向の把握など職員間で認識しており工夫している。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの外出の癖や傾向を把握しており、その日の状態を見守りながら、玄関には鍵をかけず、自由な暮らしを支えている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは常に利用者を見守りやすい場所にいる。又、利用者一人ひとりの行動を把握している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じて薬や洗剤、刃物等の保管場所や管理方法を取り決め実行している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒、窒息、誤薬、火災等の対応マニュアルを各ユニットに置いておりインシデント用紙を作成し一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成し定期的に勉強会を行っている。救命士による救急救命講習をおおむね年一回受けている		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) おおむね年一回消防訓練、避難訓練を利用者とともに受けている。又、地元の消防団の方々は毎年秋祭りには来設されホームのことをよく知ってくださっている		
			(外部評価) 年1回消防訓練・避難訓練を実施している。また地元の消防団との協力体制もある。災害対応マニュアルは作成していない。	※	地域住民の参加や協力を得ながら、年間を通じて昼・夜想定訓練や、災害対応マニュアルの作成が望まれる。また他の事業者との協力体制や災害に備えた備品などの準備も望みたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こり得るリスクについて説明し、拘束、鍵掛等の抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を家族とともに話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 一人ひとりの体調の変化を健康管理表や介護記録に記載しスタッフ間でも情報の共有をはかっている。又、利用者の異変には早期発見に努め適切な対応をしている。又、家族にはその都度連絡している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は利用者の薬の目的、副作用、用法、用量を承知しており服薬の支援、症状の変化を確認し、薬暦表に記録している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックを行っており、水分摂取に気をつけ食事の工夫（牛乳等）や運動を出来る限り取り入れ自然排便を促すよう支援している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の力を引き出しながら一人ひとりに応じた口腔内の清潔を保てるよう支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 透析の方、糖尿病の方がいるため水分、栄養バランス、いちにちのおおまかなカロリー摂取量を把握している。必要な人には水分チェック表も作成している。		
			(外部評価) 食事の摂取量、水分量の把握は出来ている。栄養バランスにも配慮がみられ、献立や調理方法にも工夫がある。病気の人は医師の指導もあり、協力医療機関でいつでも専門的なチェックが受けられる体制を確保している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 毎朝、次亜塩素系の液で手すり、車椅子、ドアノブ等消毒している。便座のエタノール消毒も毎回行っており感染症のマニュアルも作っている。利用者、職員全員は年1回インフルエンザの予防接種をしている		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮で安全な食材を使用しておりまな板ふきんを毎日消毒している。毎食前に30分次亜塩素酸につけた台ふきんでテーブルを拭いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周り、遊歩道にプランターや鉢を置き気軽に訪ねやすい雰囲気づくりを配慮している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂のテーブルは家庭用家具（施設用ではない）を使用しており居間の掘りごたつ、リビングのソファ等家庭的な共同空間作りに努めている。（手作りののれん）トイレは気持ちよく使用できるように配慮している。 (外部評価) 玄関や居間には季節を感じさせるものが違和感なく飾られている。両ユニットの間に中庭があり、ホーム全体を明るく包んでいる。共用のスペースには畳もありこたつも置かれている。日射しはカーテンで調節している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関ホール、リビング、居間の掘りごたつ、中庭等、共同空間の中に自由に過ごせる居場所を確保している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具や仏壇、生活用品等を持ち込まれ安心して過ごせる居室となっている。 (外部評価) 居室の表札やドアの暖簾は本人に合わせて手作りされたものが掛けられている。居室には使い慣れた物が持ち込まれていて、家庭で過ごされていた雰囲気が見られ、その人らしい居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝掃除時にはすべての部屋の窓を開け暖かい季節には中庭や玄関を常時開けて換気に努めている。冷暖房の温度調節は利用者の体調に合わせて随時行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 浴室の滑り止め、要所の手すり、ベッド柵の設置等ADLの低下を補うよう配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室、トイレ、浴室に手作りの表札やのれんをつけている。自分の居室がわからない人には造花等の目印をつけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭や外ベンチでの日向ぼっこを楽しんでいる。又建物の外回りに遊歩道、畑を有し自由に散歩や収穫をしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の思いを理解するよう努め、望む暮らしができるよう支援している。(居室で過ごしたい人、昼ね等)
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	10時15時のコーヒータイトム時には利用者と一緒にリビングの椅子に座り会話を楽しみながらお茶やおやつを食べている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が望む生活を一人ひとりのペースに合わせて支援している。(散歩、DVDカラオケ、CDによる音楽鑑賞、歌謡コンサートなど)
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が得意としているミシンや習字、水彩画、活花を出来るよう支援することで利用者が生き生きしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が希望する場所への買い物を職員と一緒に出かけている。(スーパー、100円ショップ)
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康管理に関する診断、治療対応方法について指示、助言してもらえる医療機関を確保している。(しのぎき医院、砥部病院、武智泌尿器科、増田泌尿器科、佐々木歯科、まえおか眼科)入居時には頭部CTをとっており、年1回健康診断を受けている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が買い物を希望されたり、帰宅願望の強い利用者にはドライブに行ったりしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	(自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時は必ず利用者の状況を説明し、家族からの要望を聞いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	夏祭りの花火大会では地域の人々がホームに来られ夜店等もあり食事をしたりとくつろいでおられる。又、信仰している宗教関係の友人が定期的に訪ねてきている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	2ヶ月に1回運営推進会議を開催することにより利用者の状況、運営状況を説明し活発な意見交換を行っている。地元住民との関係が深まりホームの理解者が増えてきている。
98	職員は、生き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者本位のケアを職員は心がけており、大きな声で挨拶をし、いつも笑顔を欠かさず働けている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が出来ること、出来ないことを見極め、手出しをせず、出来ない部分の支援をしている。利用者のペースに合わせた生活をともにしており利用者は安全で安心した暮らしが出来ている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時は家族から気軽に話しかけて下さり、年2回の家族会にはほぼすべての家族が参加している。日常の訪問も多い。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・スタッフは利用者の出来ること、出来ないことを見極めており、利用者の秘めた力を引き出せる支援を常におこなっている。
又、利用者の観察をよく行い、異常の早期発見をし病院受診等を速やかに行える。安心して、ゆったりとしかも自分らしく生活してもらえるホームでありたい。
- ・各ユニットが行っている月1回のスタッフ会には全職員が参加しカンファレンス等で活発な意見交換が行えている。職員間のコミュニケーションが取れており信頼関係の中で日々のケアを行っている。
- ・五感に働きかけ、季節ごとの行事や草花、菜園での野菜作りを行っている。家庭菜園で作った食材を私用し毎日工夫した料理を考えお出ししている。